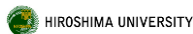


心とことばの育ちを支えるために 私たちができること

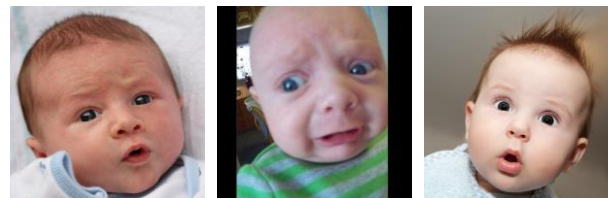
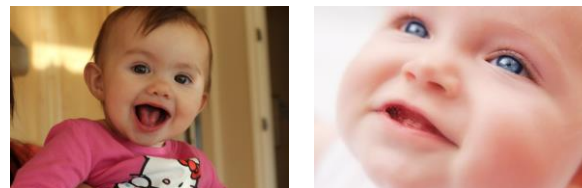
広島大学大学院
人間社会科学部教育科学専攻
教師教育デザインプログラム・国際教育開発プログラム

川合 紀宗
nkawai@hiroshima-u.ac.jp

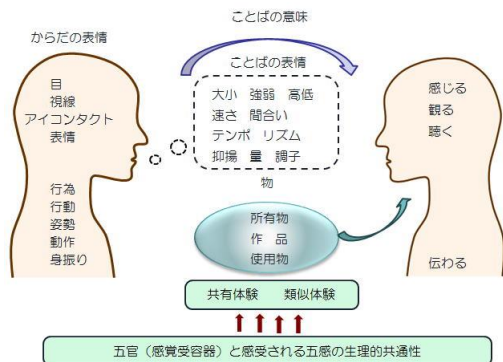


1

コミュニケーションって?



二者間で行われるコミュニケーション



山根 (2008) より引用

言語って?

Language Եօղի Linguaggio Язык
Γλώσσα Język ܐܪܡܝܐ ܒܘܠܝ ܢܣܢܢ
אָרַמֵי הַשְּׁפָה ܐܪܡܝܐ ܒܘܠܝ ܢܣܢܢ
Language 地球儀 Language
भाषा భాష 地球儀 ভাষা 言語
Linguagem Wika 地球儀 اللغة
Sprache 语言 地球儀 Bahasa 언어



$2 > -3$
 $0.999... = 1$
 $\pi \approx 3.14$
 $\sqrt{2}$
 $1 + 2 \cdot 3$
 5^2
 $(1 - 2) + 3$
 $101_2 = 5_{10}$

HIROSHIMA UNIVERSITY

コミュニケーションと言語

- 相対するものではない: コミュニケーションは言語を含む。

HIROSHIMA UNIVERSITY

ニーズの把握

When: いつ
 Where: どこで
 Who: だれが
 What: 何を
 Why: なぜ
 How: どのように

6

HIROSHIMA UNIVERSITY

子供を見取るために

- ・ 子供の「実態」≠子供の「現状」
- ・ 過去, 現在, 未来全てを把握して「見取り」になる。
- ・ 実態とは常に変化するものであり, 継続的に見取りに努めなければならない。

7

HIROSHIMA UNIVERSITY

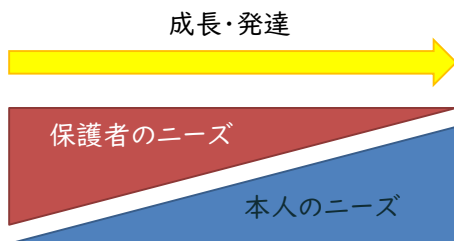
個人を見取るだけ?

国際生活機能モデル (ICF:WHO, 2001)

8

ライフステージとニーズとの関係

- ・ 乳児期
- ・ 幼児期
- ・ 学齢期
- ・ 成人期



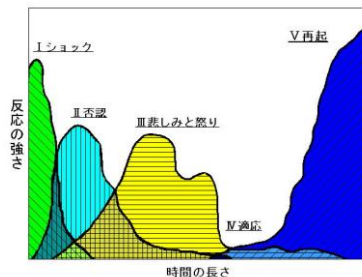
9

見取りの留意点

- ・ 情報の信頼性・妥当性の精査
- ・ 保護者の情報は？
- ・ 他機関の情報は？
- ・ 指導者自身の検査・判定・観察結果は？

↓
実は私たちの見取り力が試されている!

段階説



Drotar, D., et al. (1975)

10

その他の障害受容モデル

- ・ 慢性的悲哀説

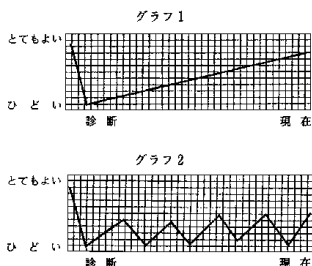


図2 経過・経過 (グラフ1) と波状 (グラフ2) の適応のパターンを表すグラフ

Olshansky, S. (1962)

- ・ 螺旋線形モデル

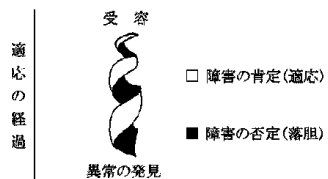


図6 障害の受容の過程

中田(1995)

11

発達性(機能性)構音障害の指導

- ・ 誤りの一貫性・被刺激性のチェック
- ・ 聞き分けの練習
- ・ 正音産生(正しい音をつくる)の練習
 - ・ 模倣や他目的の動作から目標とする音へと接近する。
 - ・ 触覚や視覚を用いて構音点を指示する。
- ・ より日常生活に近い環境へ。



12

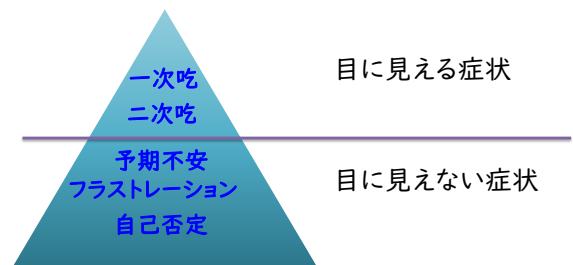
発達性(機能性)構音障害の指導

- ・ 二次的な障害の有無のチェック
- ・ 構音の誤りを過度に意識して話すことを避ける, 構音の誤りを指摘されて学校で不適応を生じているなどの問題の有無を評価する。



13

Sheehan (1970)の氷山理論



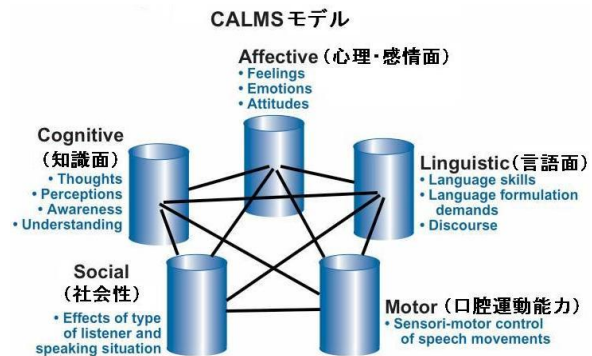
14

どんな情報収集を行うか

- CALMS(Healeyら, 2004)の考え方を利用する。
- 吃音に対する知識や気づき(Cognitive)
- 吃音に対する態度や感情(Affective)
- 表出・理解言語能力, 統語能力, 言語の複雑さの増加と吃音症状の変化との関係(Linguistic)
- 吃音症状, 口腔運動能力(Motor)
- 社会性, 友人はたくさんいるか, など(Social)

15

CALMSモデル



16

吃音支援の原理

- 支援の焦点は、それぞれの子供で異なるが、たいいていの場合、以下が実施される。
 - コミュニケーションスキルを上達させる。
 - 吃音に対する肯定的な態度や感情を育てる。
 - 不必要な努力やエネルギーを必要としない吃音へ変化させる方法を考える。
- 指導者と子供の信頼関係づくりがまず大切。

17

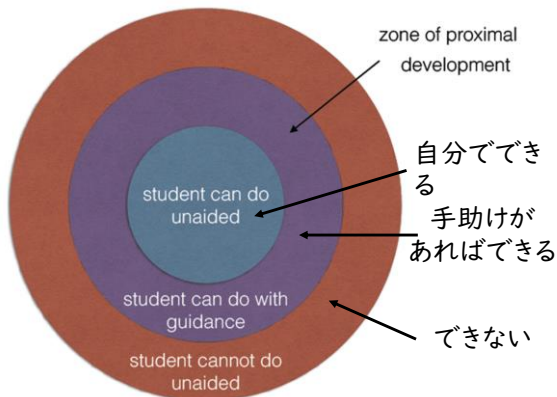
10のライフスキル(WHO, 1993)

- ・ 自己認識 Self-awareness
- ・ 共感性 Empathy
- ・ 効果的コミュニケーションスキル Effective Communication Skills
- ・ 対人関係スキル Interpersonal Relationship Skills
- ・ 意志決定スキル Decision Making Skills
- ・ 問題解決スキル Problem Solving Skills
- ・ 創造的思考 Creative Thinking
- ・ 批判的思考(クリティカル思考) Critical Thinking
- ・ 感情対処 Coping with Emotions
- ・ ストレス対処 Coping with Stress
- ・ 情報リテラシー Information Literacy



18

発達の最近接領域(Vygotsky, 1978)

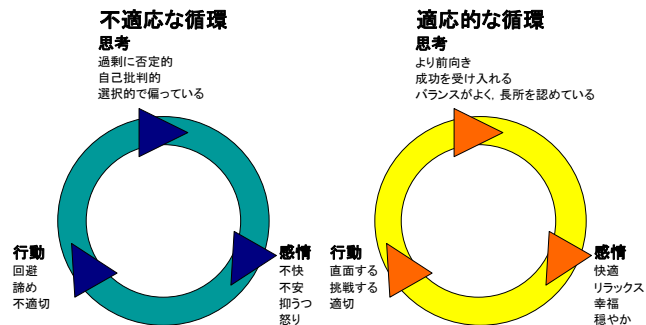


19

適応・不適応的循環 (Stallard, 2002)

つまづく子供

つまづかない子供



20

メタ認知とは？



奈良教育大学の以下のURLより抜粋
<https://www.nara-edu.ac.jp/CERT/nara-edu/outline/>

21

メタ認知とは？

- ・ 自分自身が行っている知覚、記憶、学習、言語、思考などを、1段上のより高い視点から見る（認知することである。メタ認知には、次の2つの働きがある。
- ・ メタ認知的知識：認知作用の状態を判断するために蓄えられた、課題、自己、方略、についての知識
- ・ メタ認知的技能：メタ認知的知識に照らして認知作用を直接的に調整するモニター、自己評価、コントロールの技能

奈良教育大学の以下のURLより引用
<https://www.nara-edu.ac.jp/CERT/nara-edu/outline/>

22

まとめ：心とことばの育ちを支えるために

- ・ メタ認知力・メタ言語力を育む
- ・ コミュニケーションと言語の関係を意識する
- ・ 不適応的循環から適応的循環に移行する
- ・ 学びに向かえる環境を整える
- ・ 「できる」「通じる」「話せる」実感をもたせる
- ・ 共に指導内容ややり取りを楽しむ
- ・ ことばの中身を大切に
- ・ 共に学ぶ姿勢をもつ



23

主要文献

- Brutten, G.J. and Vanryckeghem, M. (2006) *The Behavior Assessment Battery for School-Aged Children Who Stutter*. San Diego: Plural Publishing.
- Fravell, J.H. (1976) Metacognitive aspects of problem solving. In L. B. Resnick (Ed.), *The nature of intelligence* (pp. 231-236). Hillsdale, NJ: Erlbaum.
- Healey, E.C., Scott Trautman, L., and Susca, M. (2004) Clinical applications of a multidimensional model for the assessment and treatment of stuttering. *Contemporary Issues in Communication Science and Disorders*, 31, 40-48.
- 小林宏明 (2014) 学齢期吃音の指導・支援 改訂第2版-ICFに基づいたアセスメントプログラム-. 学苑社.
- 長澤泰子 (監訳) (2004) 吃音の基礎と臨床: 統合的アプローチ. 学苑社.
- Packman, A., Onslow, M., Webber, M., Harrison, E., Arnott, S., Bridgman, K., Carey, B., Sheedy, S., O'Brian, S., MacMillan, V., & Lloyd, W. (2021) *The Lidcombe Program treatment guide* (ver. 1.3).
- Riley, G.D. (2009) *Stuttering Severity Instrument (4th ed.)*. Austin, TX: Pro-ed.
- Stallard, P. (2002). Cognitive behaviour therapy with children and young people: A selective review of key issues. *Behavioural and Cognitive Psychotherapy*, 30(3), 297-309.
- 東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所共同研究 (2018) 高校生活と進路に関する調査2018.
- Van Riper, C. (1973). *The treatment of stuttering*. Englewood Cliffs, NJ: Prentice-Hall.
- 山根 寛 (2008) 治療・援助における二つのコミュニケーション一作業を用いる療法の治療機序と治療関係の構築. 三輪書店

資料中のイラスト: かわいいフリー素材集 いらすとや <https://www.iarasutoya.com>

24